

日本の総人口は減少傾向。ならば、団塊世代の大量退職は千載一遇の好機!?

田舎暮らしは杵築市で!

空港が近く、気候が温暖な杵築市。

十数年前から多くの方が移住している。

折りしも今年は、2007年。

いわゆる団塊の世代が退職を迎え始める年。

日本の総人口が減少をはじめたいま、

戦後の日本を牽引してきた方々を

移住誘致する動きが全国で活発化している。

編集部では、すでに当市に移住している

団塊の世代の皆さんらにお集まりいただき、

杵築市の魅力と、住んで気づいた想定外の出来事と、

市政への率直な思いを語っていただいた。

八坂恭介杵築市長(以下「市長」) 今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。杵築市のまちづくりのために率直なご意見ををお願いします。では司会を佐藤さんをお願いします。

を退社後、団塊世代交流サロン(大分市)で各種相談を受けています。さつそくですが、自己紹介と、なぜ杵築市を選んだのかをお聞かせ願います。

山本昭義さん(以下「昭義さん」) 出身は金沢市ですが、大阪で40年ほど暮らしていました。以前仕事で宮崎滞在中、九州の素晴らしさを

感じたことがきっかけで、また来てみたいと思っていました。でも、その当時は杵築市の存在は知りませんでした。

山本満子さん(以下「満子さん」) 第2の人生は「温暖な気候」「温泉」「海」がある場所だと思います。南紀とか伊豆とか岡山とか検討してたんです。東京在住の娘は近いことを理由に伊豆の下田温泉あたりを勧めてましたが、土地が狭かった。観光地化もされてましたし。

昭義さん 老後も大阪で暮らしつつけることだけは避けたかった。そんな折、田舎暮らしの先駆者である築島義彦さん(大田俣水在住)が発行していた情報誌「プチトマト」を入手、今の物件(土地300坪)の情報を知り現地へ。その日のうちに手付金を支払い、ほどなくインターネットをした、という訳です。

満子さん でも、はじめて来た11月、雪が降ってたんですよ。驚きました(笑)。

佐藤 後藤さんご夫妻は、いわゆる「Jターン」と聞いていますが。

後藤敬三さん(以下「敬三さん」) 私は鶴崎、妻は旧大田村出身です。全国を転勤する会社員生活の中、栃木県宇都宮市に自宅を購入していました。福岡や大分にも赴任したことがありました。

「退職後の夢は海外移住」

